

# 一般質問の概要

令和3年第1回 二宮町議会定例会

○3月5日（金）午前9時30分～

（坂本孝也、露木佳代、松崎健、小笠原陶子 各議員）

※2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。

No	質問予定議員	質問概要
1	坂本孝也 議員	<p>村田町政の町づくりの手法について尋ねる （放映件名：村田町政の町づくりの手法について尋ねる）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 二宮町で行われている各地区からの地区要望の達成状況について</li> <li>2. 一色小学校区地域再生協議会の予算と成果</li> <li>3. 東大跡地（原っぱ）に対する予算配分と団体の責任の範囲</li> </ol>
2	露木佳代 議員	<p>コロナ禍における町立小中学校の学びの保障、小中一貫教育の進捗と今後について。 （放映件名：コロナ禍の学びの保障と小中一貫について）</p> <p>世界中の人々に不安と恐怖を抱かせている「新型コロナウイルス」の感染拡大から早1年となり、教育においては「これまでの当たり前ができない」ことから、どのように学びを保障するかという議論と実践を重ね、教育委員会のリーダーシップにより変化し続けてきたことと考える。コロナ禍での学びの保障について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一斉休校、学級閉鎖、家族の体調不良等で休まなければならない児童生徒に対する学びの保障について。</li> </ol> <p>二宮町教育委員会は、平成29年度から平成30年度の二か年で、県の「小中一貫教育推進事業」の委託を受け、小中一貫教育を実現するための研究を進めてきた。今年度の予定では、先進事例校の視察に行き、「二宮町小中一貫教育校設置計画」が策定されているはずだったが、どちらも実現していない。コロナの影響で、視察ができなかったことは仕方ないとしても、町民との2回目の意見交換会から1年が経過する今でも、教育委員会の見解や方向性は町民に示されていない。2月の教育委員会議では、学校再配置・学区再編の目途が立たないという状況から、本来目指していた施設一体型の小中一貫教育の方向性が変わったと思われる。また、教育部長からは「これまで教育委員会が進めてきたが、（仮称）駅周辺まちづくり計画を策定する方向が示されている中で、今後は、まちづくり全体の中に学校を位置づけて検討していく時期にきている」というように述べており、突然の変化に戸惑う。</p> <p>二宮町の児童生徒のために、どのような教育を実現し、どういった手段・順番で、何をしていくのか。そして、課題と対策を伺う。時系列と希望が見える形での答弁をお願いしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 施設一体型の小中一貫教育、学校再配置、学区再編等の進捗状況と今後、そして（仮称）駅周辺まちづくり計画との関連について。</li> </ol> <p>教育委員会議では、各委員のそれぞれの知見から、非常に興味深く、核心をつ</p>

		<p>いた意見が活発に出ている。しかし残念ながら、それらの意見がどう反映されるのか、されないのかが非常に分かりづらい。そして、せっかく委員からさまざまな意見が上がっても、各委員が意見を言うことまでで終着してしまい、委員同士の議論にまでつながっていないようにも感じる。そのため、委員がどの部分で合意をしたのか、していないのかも分かりづらい。挙手をして賛否を取るなど、委員各自がどのような考えを持って会議に臨んでいるのか、分かりやすい運営を求めたい。多くの課題を抱える今、教育委員会の意思決定のプロセスや、さらに活発で豊かな会議のあり方について伺う。</p> <p>3. 教育委員会等議等のあり方について</p>
3	<p>松崎健 議員</p>	<p><b>新型コロナ禍に対する町の取り組み</b> <b>(放映件名：新型コロナ禍に対する町の取り組み)</b></p> <p>WHO によるパンデミック表明から 1 年。日々の生活において「新しい生活様式」の実践が求められています。ワクチン接種は一つの切り札であると期待はしますが予断を許さない状況であることに変わりはありません。次の 10 年（令和 5 年～令和 14 年）の町の未来を描く次期総合計画の策定が始まりますが、「新しい生活様式」を踏まえたものであるとしています。この「新しい生活様式」につきましては、令和 3 年度施政方針におきましても、これを踏まえて行くことが明記されていますが、本当の意味において中身のあるものでなくてはなりません。</p> <p>そこで問います。</p> <p>要旨 1 厚生労働省が示す「新しい生活様式」の実践例において、テレワークの実践が求められている。地方自治体のテレワーク導入に向けて総務省関連団体が開発したシステム実証実験に二宮町は参加していないが「今後の計画の中で（導入を）考えていく」との答弁があった。実証実験の進捗状況はどうか。今後町はどうかかわっていく予定か。また、会議もオンラインでの実践が求められているが、町の対応は十分といえるか。</p> <p>要旨 2 次期総合計画における「(仮称) 駅及びラディアン周辺施設まちづくり計画」は「新しい生活様式」を踏まえたものでなければなりません。とりわけ役場新庁舎に関してはテレワークがどこまで実践可能かを見極めたうえでの基本設計と考えるが、そのスケジュールは。</p> <p>要旨 3 小中一貫教育校に関しては、そのメリットに関し賛否が分かれる中、「新しい生活様式」を踏まえてみても拙速に推進するべきではないと考えるがどうか。</p> <p>要旨 4 「新しい生活様式」に鑑み、何のために定住人口を確保するのか。</p>

4	<p><b>小笠原 陶子 議員</b></p>	<p><b>コロナ禍の中、孤立する方の支援と地域福祉について</b>  <b>(放映件名：コロナ禍の中、孤立する方の支援と地域福祉について)</b></p> <p>昨年6月に緊急事態宣言下の地域福祉の在り方を問い、民生委員の動きや通いの場の再開について質問した。  担当部局は新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に備えて準備をしているとの回答だった。</p> <p>今年1月7日に2度目の緊急事態宣言が1都3県に出され、1月13日に7つの府県を加え、11都道府県に拡大され、2月2日にこのうちの10都道府県に対し宣言が3月7日まで延長された。そこで、町としては1回目の緊急事態宣言での学びを、どのように生かしているのか伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通いの場が再び閉鎖され、地域の交流の場が大きく減っている。地域の公共施設は今回は開館しているので、さまざまな工夫ができるとおもうが町の取り組みを伺う。</li> <li>2. 令和2年度は二宮町社協の相談件数や貸付制度利用者が増えていると聞くが、その実態と対応と困っている方々への情報提供はどうしているのか。</li> <li>3. デジタルが不得手な方々への情報提供は紙ベースの掲示板や回覧板や戸別配布とロコミだが、町は真剣に今までの方法の検証をすべきと思うがどうか。例えば商業施設の協力などはどうしているのか。</li> </ol>
---	-----------------------------	---